

軍務官支配ノ病院ヲ京
都府ノ管轄トス
元年十二月四日達ヲ以テ
軍務官ニ引渡サシム

軍務官へ達 元年十一月二十日
病院之儀是迄其官ニテ支配候處自今京都府支配ニ被仰付候間此旨相達候事
京都府へ達 元年十一月二十日
病院ノ儀是迄軍務官支配ニ被仰付置候處自今其府ニテ支配可致旨御沙汰候事

京都府病院ヲ再ヒ軍務
官ノ支配トナス
二年八月八日兵部右達ヲ
以テ京都軍務官治療所ヲ
廢止ス
元年十二月十三日達ヲ以
テ病院ノ名稱ヲ廢シ軍務
官治療所ト唱ヘシム俱ニ
兵部門陸軍官制ノ日ニ載

軍務官へ達 元年十二月四日
別紙ノ通京都府へ御沙汰ニ相成候間此旨可相心得候事
京都府へ達 元年十二月四日
病院ノ儀先般其府支配ニ被仰付候へ共御僉議ノ筋モ有之候間不及支配更ニ軍務官へ引渡可申事

東京府管轄ノ病院ヲ學
校ノ管轄トス
二年六月十五日達ヲ登看
スヘシ學政門學校ノ日ニ
載ス

學校へ達 二年五月十日
病院之儀是迄東京府管轄之處自今學校可爲管轄旨御沙汰候事
東京府へ達 二年五月十日
病院之儀是迄其府管轄之處自今學校管轄ニ被仰付候間此旨相達候事

大阪府病院ヲ大學ノ管
轄トナス
六年一月日關大阪外國語
學校ニ屬ス學政門學校ノ
日ニ載ス

大學へ達 三年二月二十八日
大阪府醫學校病院自今其學管轄被仰付候事
大阪府へ達 三年二月二十八日
其府醫學校病院自今大學管轄被仰付候間此旨相達候事

長崎縣病院學則并學職
人員進退ヲ大學管轄ト
ス
四年十一月十四日達ヲ以
テ文部省ニ屬ス

大學へ達 三年二月二十八日
長崎縣病院學則并學職人員進退之義自今其學管轄被仰付候事
長崎縣へ達 三年二月二十八日
其縣病院學則并學職人員進退之儀自今大學管轄被仰付候間此旨相達候事

函館病院ヲ大學東校ノ
管轄トス
四年十一月四日達ニ管轄
ス函館病院ノ部ニ載ス

大學東校へ達 三年四月十九日
函館病院自今其校管轄被仰付候事
開拓使へ達 三年四月十九日
函館病院自今大學東校管轄被仰付候間此旨相達候事

開拓使伺 三年十月四日
函館病院其外北海道諸醫官ノ儀去秋大學東校へ示談中助敬比等以下ノ醫生ヲ當使へ引受所管ノ官員ニ
シテ萬般取賄病院規則藥種器械等迄當使限ニテ夫々相整來候然ル處函館病院ノ儀ハ開港場ニモ有之殊
更陸精ニ無之ヲ不相叶第一疾病ヲ治療シ人命ヲ保持スルノ儀ハ開拓ノ最緊要ナル筋ニシテ須臾モ緩セ
ニ難仕既ニ去冬來樺太ヲ始メ根室宋也杯へ入込候農工民等ノ内瘴瘧近寒ノ風土ニ不慣許多及殞命候段
實以憫然ノ次第其豫防セシムルノ道又充分精調ノ域ニ至兼候段ハ何ノモ恐懼ノ至畢竟中助比等以下ノ
醫官ヲ當使へ引受病院等ノ事委託仕置候テハ治療物理ノ筋ヲ始其精研ヲ不盡備ハ勿論函館病院ノ儀外
國人居留ノ場所ニモ有之長崎橫濱等一貫スルノ處置無之ヲ不叶ニ付更ニ北海道醫官ノ進退病院規則ヲ
始メ藥種器械ニ至迄悉ク大學東校ノ取扱ニ致シ尙業術相應ノ醫官彼地へ差向テ後來治療筋ハ勿論物理
精究其地ニシテ藥草藥石ヲ採製スルノ儀ヲモ相開キ衆民保全ノ道相盡シ候様仕度候間其旨大學東校へ
御沙汰被下候様奉存候事
〔指令三年四月十九日〕
〔可爲伺ノ通最費用ノ儀ハ其使定額ヲ以テ可相充事〕

大學へ達 四年六月三日
高知藩病院自今其學管轄被仰付候事
高知藩へ達 四年六月三日

高知病院ヲ大學管轄ト
ス
五年十月管理ヲ解ク學政
門學校ノ日ニ載ス
四年七月十八日布告ヲ以

其藩病院自今大學管轄被仰付候事
但諸費用之儀ハ從前ノ通藩費ニ可相立事

文部省へ達 四年十一月十四日

長崎縣病院自今其省管轄被仰付候事

長崎縣へ達 四年十一月十四日

其縣病院自今文部省管轄被仰付候間同省へ可引渡事

文部省達 第六年七月九日

其縣管下病院又ハ會社病院等設立有之候ハハ別紙雛形ニ照準シ委細取調早々可申出此段相達候也
但病院設立無之候ハハ其段可届出事

雛形

病院或ハ會社病院一箇所

- 一 何年號干支何月何國何郡何村或ハ元何城下ニ於テ設立之譯
- 一 何年號干支何月元何縣費ヲ以テ設立其後何々ノ事故ニヨリ官費ヲ止メ其地方醫師或ハ有志ノ寄附金又ハ積金等ヲ以テ資本トシ保續スル次第
- 一 但會社ナレハ何年號干支何月何ノ誰誰會社取結設立ノ次第
- 一 一箇年入費之定額
- 一 病院事務取扱ノ役名人員給料并ニ醫員姓名役名給料等月計年計
- 一 外國人雇入有之分ハ何年號干支何月ヨリ向何箇年間一箇月給料洋銀何程ニテ條約之次第
- 一 病院規則并ニ施療ノ傍醫術ヲ講習スル者ハ現今生徒ノ姓名及員數且其教科規則等
- 一 患者ノ員數入院外來ノ區別ヲ立當明治六年一月ヨリ毎月調

東京府達 第六年七月十四日

右之通り被相達候條市在各區病院有無共取調來ル三十日限り各大區每取束可届出候此段相達候也

東京府達 第八年十月三日

明治六年七月九日文部省第百號布達之雛形ニ照準各區病院有無共取調來ル二十日限各大區每取束更ニ可届出候此旨相達候事

文部省布達 第六年九月十二日

自今其縣管下ニ於テ病院設立ノ爲メ有志ノ者ヨリ金穀寄附致シ候節ハ其都度可届出候此旨布達候事

文部省ヨリ東京京都大阪三府へ達節錄 七年八月十八日(全文ハ醫事)

別冊醫制先以三府ニ於テ施行可致御許可相成候處從來之習俗素ヨリ一時難被行事情モ可有之ニ付著手之儀ハ現今緊要之條件ヲ採摘シ其都度可相達候條順次行届候様厚ク可致注意此旨相達候事

但各地ノ流弊ニ因リ難閣事件ハ統テ醫制之旨趣ニ基キ將來ノ目的ニ歸宿致候様其條件ヲ掲ケ著手之
都度可伺出事

醫制

第一病院

- 第十九條 官費ノ病院ハ醫學學校ニ屬スルモノニ限ルヘシ
- 第二十條 醫學學校附屬ノ病院ハ院長或ハ副院長當官醫師藥局長以下ヲ置クヘシ
但シ其員數ハ院長其校長ニ議シ衛生局地方官ノ協議ヲ以テ文部省ニテ之ヲ定ム

テ大學ヲ廢シ文部省ヲ置ク

長崎縣病院ヲ文部省管轄トス

四年十二月醫學校ト收稱ス學政門學校ノ目ニ載ス

府縣病院并會社病院等設立ノ分取調具申セシム

病院設立ノ爲メ金穀寄附ノ者アル節ハ届出シム

八年七月達第百二十一號ニ依リ消滅ス貧恤門貧恤ノ目ニ載ス

病院諸則

八年五月十四日文部省達ヲ以テ改正ス醫事ノ目ニ載ス

第二十一條 院長ハ公私病院ニ拘ハラズ醫術開業免狀第三十條所持スル者ニアラサレハ其職ニ任スルヲ許サズ

(當分)本科課目ノ大意ニ通スル者ヲ撰テ之ヲ任ス

第二十二條 醫學學校附屬病院ノ院長ハ專任或ハ校長副校長ヨリ兼勤スルコトアルヘシ

第二十三條 院長ハ公私病院ニ拘ハラズ毎半年間療スル所ノ病客ノ員數治愈死亡病名等ノ明細表ヲ製シ毎年兩度二月七月中衛生局及ヒ地方廳ニ出スヘシ

又難病奇患ノ始末及ヒ自己ノ意見ヲ附シテ文部省ニ出スヘシ

第二十四條 醫學學校ニ屬スル病院ノ費用ハ地方ヨリ其幾分ヲ給スヘシ

但シ入院料藥種料ハ院長其校長地方官及ヒ衛生局ニ議シ文部省ニ申達シテ之ヲ定ム

(當分)入院ノ病客ヲ分テ二等或ハ五等トシ地方ノ便宜ニ應シテ毎等相應ノ入院料ヲ收ム極メテ貧

窮ニシテ其實證アルモノハ納金ニ及ハス但シ地方病院ノ規則ヲ參考スヘシ但シ此病院ハ診察料ヲ收ムヘカラス

第二十五條 一府縣或ハ有志ノ人民協同シテ病院ヲ建設セント欲スル時ハ先ツ發起人社中ノ人員醫師

教員ノ屬籍姓名履歷及ヒ會社ノ方法資金ノ緣由保續ノ目的ヲ記シ學問ノ課程病室藥局ノ規則ヲ附シ

テ地方官ニ出シ地方官之ヲ衛生局ニ議シテ文部省ニ達シ以テ許可ヲ受クヘシ

諸省使寮等ニテ病院ヲ設クル者ハ醫師藥局掛ノ屬籍姓名履歷及ヒ院內ノ諸規則ヲ記シ其長官ヨリ文

部省ニ議スヘシ

海陸軍ノ外地方病院ハ學科ノ條目醫師教員ノ撰擧等總テ醫學學校及ヒ附屬病院ノ規則ニ準フヘシト雖

モ地方ノ情態ニヨリ一時照準シ難キモノハ其情實ヲ記シテ文部省ニ開申スヘシ

第二十六條 癩毒院癲狂院等各種病院設立ノ方法ハ皆前條ニ則トルヘシ

東京府へ達 七年九月十日

外國人病氣ノ者東京醫學學校病院へ入り療養ノ儀申出候節ハ其國領事ノ添願書ヲ出サセ病院諸規則ヲ示

外國人東京醫學學校病院
入院手續

十年四月文部省第二號布

進テ以テ東京醫學學校東京
京大學ト改稱ス學政門學
校ノ目ニ載ス

シ承諾ノ書面認メ候ハハ入院可差許旨文部省へ相達候條右ノ趣各領事へ心得ノ爲其府ヨリ可及通知此旨相達候事

文部省何七年六月十五日

外國人民中病氣ノ者東京醫學學校病院へ入院療養致度儀申出候節ハ御國人同様ノ取扱ヲ以テ入院差許候

ヲ可然哉此段相伺候條至急御指令有之度候也

指令七年七月十三日
伺之趣ハ其國領事ノ添願書ヲ出サセ病院諸規則相示シ承諾ノ書面爲認入院可差許事

別紙文部省何外國人病院へ入院療養ノ儀朱書ノ通及指令候條各國領事へ通知ノ儀ハ其省ニ於テ可取計此旨相達候事

左院議案七年六月十九日

別紙文部省上申ノ趣審查候處外國人民病氣ノ者病院へ入院療養ヲ乞ヒ候節ハ其國領事ノ添願書ヲ出サ

セ候上入院差許候方可然ト存候因テ御指令案并外務省へ御達案トモ勘査此段上陳候也

外務省上申七年七月二十七日

別紙文部省何外國人病院へ入院療養ノ儀朱書ノ通同省へ御指令相成ニ付各國領事へ通知ノ儀ハ當省於テ

可取計旨過ル十三日御達有之候處右病院入ノ儀ハ當省於テ取扱候事件ニ無之若外國人病院へ來リ療養

ノ爲メ入院ヲ乞フ者アレハ本人ハ病院入諸規則ヲ示シ右承諾候上ハ其國領事ノ添願書ヲ以テ東京府ノ手

ヲ經由シテ出願候ハハ入院可差許旨本人へ相達可然ト存候依テ當省へノ御達書ハ不用ニ候間致返上候

也
左院議案七年八月二十七日

外國人民病院入療ノ儀ニ付先般文部省ヨリ稟白ノ趣御聽許ノ末各國領事へ通知ノ儀外務省へ御達相成

候處頃日別紙ノ趣ヲ以御達書返上致シ候ニ付猶協議ヲ逐ク再應審查候處前條入院ノ手續心得ノ爲領事

へ通知致シ候迄ノ事柄ニ候間其地方官ヨリ相達方順序穩當ニ可有之ト存候因テ東京府へノ御達案更ニ

調査此段上陳候也

(參考)
內閣記錄局ヨリ帝國大學へ照會二十四年一月二十九日

外國人大學病院其他官立病院ニ入院候節手續等現今如何相成居候哉當局編纂上入用ニ付書類有之候ハ

ハ寫一通御送付有之度此段及御照會候也

衛生門 病院

公立私立病院設立何及願書式

二十年十二月内務省訓令第五十二號ヲ以テ廢止ス

内務省達 乙第九年三月三十一日

病院名稱區區相成候テハ不都合候條官立病院陸軍省文部省警視廳等全ク國稅ノミヲ以テ公立病院ノ地方區畫以テ設立スルモノ又ハ至ク府縣稅ヲ以テ設立スルモノ及ヒ府縣稅ヲ以テ民費ノ幾私立病院ノ民費ヲ分テ扶助スルモノ并ニ管内人民ノ獻金額ヲ以テ府縣應ニテ設立スルモノ等私立病院ヲ以テ設立スルモノノ種別判然可相立候就テハ自令病院設立ノ節ハ左ノ書式ニ照準シ公立病院ハ當省へ經伺ノ上處分スヘク私立病院ハ該管廳限リ聞届其都度届出候様可致此旨相達候事

但公立病院院長ノ進退給料増減等ハ其時時當省衛生局へ開申可致事

公立病院設立何書式 料紙美濃紙正副 一通ヲ出スヘシ

一 病院位置

第何大區何小區何國何郡何村何番地

一名稱

公立何何病院

一 院則

患者診察ノ手續入院料藥價診察料差等ノ類

一 教則

醫學生徒教場ニ附屬スルモノハ教科ノ品目順序等

一 院長以下醫員履歷

一 院長以下醫員給料

每一人 一箇月 金何程

一 病院費用

書籍器械等入費 一箇月 金何程

營繕入費并諸雜費 一箇月 金何程

雇入給料 一箇月 金何程

一箇年 金何程

公立私立病院設立何及願書式

二十年十二月内務省訓令第五十二號ヲ以テ廢止ス

内務省達 乙第九年三月三十一日

病院名稱區區相成候テハ不都合候條官立病院陸軍省文部省警視廳等全ク國稅ノミヲ以テ公立病院ノ地方區畫以テ設立スルモノ又ハ至ク府縣稅ヲ以テ設立スルモノ及ヒ府縣稅ヲ以テ民費ノ幾私立病院ノ民費ヲ分テ扶助スルモノ并ニ管内人民ノ獻金額ヲ以テ府縣應ニテ設立スルモノ等私立病院ヲ以テ設立スルモノノ種別判然可相立候就テハ自令病院設立ノ節ハ左ノ書式ニ照準シ公立病院ハ當省へ經伺ノ上處分スヘク私立病院ハ該管廳限リ聞届其都度届出候様可致此旨相達候事

但公立病院院長ノ進退給料増減等ハ其時時當省衛生局へ開申可致事

公立病院設立何書式 料紙美濃紙正副 一通ヲ出スヘシ

一 病院位置

第何大區何小區何國何郡何村何番地

一名稱

公立何何病院

一 院則

患者診察ノ手續入院料藥價診察料差等ノ類

一 教則

醫學生徒教場ニ附屬スルモノハ教科ノ品目順序等

一 院長以下醫員履歷

一 院長以下醫員給料

每一人 一箇月 金何程

一 病院費用

書籍器械等入費 一箇月 金何程

營繕入費并諸雜費 一箇月 金何程

雇入給料 一箇月 金何程

一箇年 金何程

右費用總計 一箇月 何程此内民費賦課金何程有志獻金凡何程收入金何程 府縣稅何程ヲ以テ出納遣拂ノ積等云云

右ノ通設立仕度此段相伺候也

年號月日

何府知事 參事 何某

内務卿 何某殿

私立病院設立願書式 料紙美濃紙三通ヲ出サシメ一ハ指令シ一ハ該廳ニ留メ一ハ添書シテ内務省ニ届出ヘシ

一 私立病院位置

第何大區何國何郡何村何番地或何某居宅何何病院ト唱フ

一 院則

一 院長以下醫員履歷

以上二項公立病院ノ例ニ準スヘシ

一 醫員給料

一箇月 金何程

一人或數人ノ醫師結社設立ニテ給料ヲ不定モノハ記スルニ及ハス

一 病院費用

一箇月 出納ノ見積概畧

右ノ通設立仕度此段奉願候也

年號月日

何府知事 族平民

醫師或何業何職

苗字名印

或結社人

苗字名印

區戶長或醫務取締

苗字名印

何府知事參事何某殿

衛生局ヨリ内務省へ伺九年三月日附
各府縣ニ於テ病院ノ設置退却増殖致シ隨テ保護勸奨ノ道モ一層御世話可相成ニ付テハ名稱ノ區別院長
以下層員ノ履歷學術給料等不相分テハ不都合ニ付左案各地方へ御達相成度相伺候也

東京府私立病院設立願書式

十年一月東京府達乙第十號ヲ參看スヘシ

東京府布達 第九年六月十五日

自今私立病院設立ノ者ハ左ノ書式ニ照準戸長加印ヲ請ケ可願出此旨布達候事

私立病院設立願書式 料紙美濃紙三通

一 私立病院位置

第何大區何小區何町何番地或ハ何某居宅何何病院ト唱フ

一 院則

患者診察之手續入院料藥價診察料等ノ類

一 院長以下醫員履歷

一 醫員給料

一箇月 金何程

一 病院費用

一箇月 出納ノ見積概畧

右之通設立仕度此段奉願候也

何府知事 族平民

第何大區何小區何町何番地 寄住

醫師或ハ何業何職

苗字名印

年號月日

或ハ結社人

苗字名印

右區戸長

苗字名印

東京府知事何某殿

東京府達 乙十年一月二十二日

明治九年本廳甲第四十五號ヲ以私立病院設立之者出願書式及布達置候ニ付テハ從前設置セシ私立病院
ハ建設之位置及ヒ規則等右布達ニ照準詳細取調本年二月二十八日限り取纏可差出此旨相達候事

内務省衛生局ヨリ開拓使へ通報 十一年六月十八日

御使御管下ニ於テ現今設立相成居候官立公立私立本支病院微毒救貧癩病癪狂諸院トモ總テ別紙之廉廉
至急御取調之上御差廻有之度此段及御依頼候也

追テ今後進退有之節ハ乍御手数數其都度御通知相成度此段モ豫及御依頼置候也

内務省衛生局ヨリ警視局へ通報 十一年六月十八日

御局御所轄本支病院并微毒検査所共別紙之廉廉至急御取調之上御差廻有之度此段及御依頼候也
追テ書以下同文

内務省衛生局ヨリ府縣へ通報 十一年六月十八日

御縣管下ニ於テ現今設立相成居候公立私立本支病院微毒救貧癩病癪狂諸院并醫學校ニシテ病院ヲ附屬
スル者等有之分ハ別紙之廉廉至急御取調之上御差廻有之度此段及御照會候也

(別紙)

何病院 何年月設立

東京府私立病院設立願書式布達ニ付從前ノ私立病院ノ位置及規則等
差出サンム

病院設立月日位置及院長姓名給料ヲ通報セシム

位置 何國郡町村
 院長 給料何程 何
 副院長 同 何 某某

衛生局ヨリ内務省へ伺
 一昨明治九年三月乙第四十三號但書ヲ以公立病院院長之進退給料増減等ハ時々本局へ開申可致答之處
 兎角屆滿相成居今般衛生擔當之者姓名屆方御達相成候ニ付ハ院長副院長之姓名モ盤頓致置度且又官
 公私立病院等位置之儀モ不分明ニ而製表上差支候ニ付甲案開拓使乙案警視局へ御照會丙案各地方衛生
 擔當之者へ照會致度左案相伺候也

宮内省ヨリ東京府下有
 志共立東京病院へ金圓
 ヲ下賜ス

宮内省ヨリ東京府へ達 十六年五月二十八日(宣達門職ス)
 其府下有志共立東京病院へ思召ヲ以テ金六千圓下賜候事

戸塚文海等ヨリ宮内省へ稟請十六年四月日
 小臣等謹ク白ス恭ク惟フニ太政一新已降萬機ヲ改其シ玉ヒ日ニ月ニ人民ヲ導ヒテ開明ノ域ニ進マシム
 是レ偏ニ天皇陛下至仁ノ聖德ニ出ル者ニシテ斯隆運ニ際シ聊カ義務ヲ辨スル者誰カ其恩澤ノ萬一ニ奉
 答スルノ志ナカラシヤ小臣等夙ニ仁術ヲ以テ人民ヲ濟フヲ業トス則チ之ニ由テ義務ヲ國家ニ盡サント
 欲ス而シテ人民ニ貴賤ノ差アリ貧富ノ別アリ富貴ノ人ハ居常飽食暖衣ニシテ窮困ノ何事タルヲ知ラサ
 ル者アリ其疾病ニ罹ルニ及シテハ名醫ヲ聘シ其藥ヲ服シ保養看護至ラサルナク一擲千金ヲ惜マサル
 ナリ彼ノ赤貧下賤ノ民ハ之ニ反シ終身營々役々衣食ニ勞動シテ猶ホ飢寒ヲ免レサルモ得ヘカラス到底呻吟
 寒ニ迫ル不幸ニシテ疾病ニ罹ラハ縦令ヒ醫藥ノ効ヲ以テ十死ニ一生ヲ求ムルモ得ヘカラス到今
 悴シテ怨ヲ銜ミ非命ニ斃ルルノミナリ凡ソ此ノ如キハ悲慘ノ狀宛モ孺子ノ將サニ井ニ入ラントスルヨ
 ヲ甚キ者ニシテ苟モ惻隱ノ心アル者ハ其死ヲ傍觀スルニ忍ヒス迅速ニ之ヲ救ハサル可ラナリ現今歐
 米各國到ル所トシテ施療病院ノ設立アラサルナキハ他ナシ即チ是レ人ニ忍ヒサルノ心ヲ以テ人ニ忍
 サルノ政ヲ行フノ道ナリ然ルニ本邦ニ於テハ民ノ止マル所ノ聲下ト雖トモ未ダ一個ノ私立施療病院
 ラサルヲ以テ百萬人中非命ニ斃ルル者幾許ナルヲ量リ難シ嗚呼是レ誰レノ愆トシテ之ヲ創立セサルカ爲メナ
 シ其務ヲ怠ルカ爲ナル可シト雖トモ亦小臣等仁術ヲ量リ難シ嗚呼是レ誰レノ愆トシテ之ヲ創立セサルカ爲メナ
 リ思フテ此ニ至レハ長息ニ堪ヘス乃チ有志者數十名相謀リ義舉ヲ發起先シテ之ヲ創立セサルカ爲メナ
 ト稱シ以テ醵寡孤獨及ヒ窮困無告ノ人民非命ニ斃ルル者救濟セシムコト企望セリ從是本年三月三十
 一日迄日數二百三十五日間ニ患者ノ外來或ハ入院シ施療ヲ受ル者概チ六百一十一人ナリ此施療日數一萬
 二千四百一十一日然リ而シテ施療ヲ請フ者日ニ月ニ陸續増加スルモ奈何セシム各有限ノ資力ヲ以テ無

ノ請求ニ應スル能ハス又同志者ノ義捐ヲ仰カントスルノ金額ハ豫算十萬圓ナリト雖モ未ダ目途ノ半ニ
 達セズ早ク已ニ忍ヒサルノ心ヲ忍ヒテ之ヲ拒絶セサルヲ得サルニ至ルハ寔ニ小臣等ノ遺憾ノミナラス
 疾病慘怛ノ患者ニ於テハ憂天ニ號泣スルノ外ナシ故ニ小臣等忌諱ヲ憚ラズ歎願スル所以ノ者ハ天皇陛
 下至仁ノ聖德ヲ垂レサセ玉ヒ若千金ヲ下シ賜リ小臣等シテ本院ノ基業ヲ鞏固ニシテ之ヲ永遠ニ維持
 セシメテラシムコトヲ果テ然ラハ徒ニ小臣等シテ蒙リ賜リ下シ賜リ小臣等シテ本院ノ基業ヲ鞏固ニシテ之ヲ永遠ニ維持
 其恩澤普ク四方ニ波及シ天下ノ人民漸ク仁壽ノ域ニ躋リ國家ノ隆運ハ日月ト共ニ悠久ナラシム
 冀クハ閣下小臣等ノ微衷ヲ洞察シ本書并ニ別冊病院設立ノ大旨ヲ上奏セラレ以テ其素志ヲ貫徹セシメ
 ラシムコトヲ尊嚴ヲ冒瀆シ誠惶誠懼頓首百拜略之

宮内省ヨリ東京府へ達 十六年九月二十四日
 其府下同愛社へ思召ヲ以テ金千圓下賜候事

東京府ヨリ宮内省ニ稟告十六年六月七日
 貧民ノ疾病ニ罹リ治療ヲ受ク得サル者ヲ救療スルノ趣旨ヲ以醫師高松凌雲等發起ト爲リ一社ヲ結ヒ同
 愛社ト稱謂シ去ル明治十二年三月ヨリ引續府下ノ貧民患者ヲ救療致シ居明治十五年ヨリハ救療社員ノ
 外慈善社員モ加入シ現今ニ於テハ別紙ノ通り慈善社員二百七十七名救療社員二十八名ノ多キニ至リ該社
 設立ヨリ本年四月迄救療シタル患者總數三千九百二十八人此藥價金八千三百九十二圓餘ノ巨額ニシテ
 已ニ其成績モ相顯レ居候モ之ニ有之候然ルニ今般有志共立東京病院へ思召ヲ以テ金員下賜相成候ニ付テ
 ハ右同愛社ノ儀モ共立病院ト同質ノモノニシテ前陳奇特ノモノニ有之殊ニ右共立病院ニ恩賜ノ風聞ヲ聞
 込同様恩賜ヲ蒙リ度段其重立候面而ヨリ小官迄願出ノ次第モ有之旁該社へモ相當ノ金員下賜相成候様
 致度別紙書類相副此段及上申候也 別紙

郡病院職員過失アルト
 キノ處分カ

岩手縣ヨリ内務省へ伺十六年九月二十六日
 郡病院ハ郡民ノ共合ニ成立セルモノニシテ其職員ハ則チ民備ノ性質ニ候得ハ是等ノ職員ニ過失アルモ
 直ニ官吏懲戒例ニ據リ處分難相成モノトハ被考候得共元來病院開設ニ付テハ其規則モ御省ノ裁可ヲ得
 且地方稅ヨリ幾分ノ補助ヲ受ク乃チ一郡ノ公立ニ係ルモノニ候得者縣立學校教員職員等ノ處分ニ準シ
 懲罰ノ方法不設置候テハ自然取締ニモ關シ不都合ト存候ニ就テハ懲戒例ニ準シ縣令ニ於テ處分法ヲ設
 ク不苦儀ニ候哉
 右相伺候條何分ノ御指揮ヲ仰候也

内務省指令 十六年十一月三十日
 公立郡病院職員懲戒之儀ニ付別紙伺出之趣モ有之候處右職員等ハ民備ノ性質ニテ縣廳於テ其進退黜陟

ニ不關上ハ別ニ懲戒法ヲ設ルニ不及備入ノ際夫々約束ヲ設テ取締相立候様郡長於テ管理可爲致此旨訓示候也

内務省訓令 第二十年十二月二十四日 第五十二號 北海北道廳府廳 公立私立病院設立例及願書式ヲ廢ス

衛生局ヨリ内務省ヘ伺二十年十二月四日

右者當時各府縣ニ於テ追々病院設立相成候處衛生事務創始之時ニ際シ一之ヲ地方廳ニ放任候テハ都合之際不少カ爲本達ヲ以テ病院組織法等租一定ニ歸シ候ニ付最早之ヲ精査スルノ必要ナク且其費用支出ノ件モ地方稅并寄附金ヨリスルモノハ府縣會町村費ヨリスルモノハ町村會ノ決議ヲ經候間以來公立之件ハ設立之上報告例ニ依テ爲届出私立之分ハ別ニ届出ヲ要スルモノハ町村會ノ決議ヲ經候間以來公立之件ハ第四十三號御達之儀ハ廢止セラレ候方然裁御訓令案取調左ニ相伺候也

東京府伺四年四月日

民間ニ於テ懲戒ノ行レ候儀ハ今更申上候マテモ無之實以御國ノ大害ニ付右豫防ノ方法取設不申候ハハ不和叶儀ニ候處於橫濱長崎等ハ夫々懲戒院ヲ開キ專ラ施療有之追追其功ヲ奏シ法則等モ相立候由然處當今英國醫師ニユイトノ是迄橫濱病院ニ罷在右治療致居候處同斷ノ儀ハ最早成功手明キ相成候趣同國領事ヨリ懇志ノ談モ有之旁當府下於テモ試驗ノタメ新吉原町ヘ懲戒院取設前書ニユイトノ相成施行致度右療用ニ屬シ候入費ノ儀ハ遊女屋共ニ爲賄候積リニ候間至急御沙汰被下度此段相伺候也

指令 四年四月二十二日

伺之通

(備考)

内務省衛生局第四次年報抄錄 開港場懲戒病院ハ慶應三年九月將軍德川慶喜英國醫官紐頓ノ建議ヲ採用シテ始メテ之ヲ橫濱港ニ設立シ次ヲ長崎神戸ノ二港ニ及ホシ紐頓ヲシテ三港ヲ巡監セシム爾後同國ノ醫官交替其任ニ當リシカ病院ノ裝置構造治療ノ方法等時時混雜ヲ來スコト有ルヲ免レシム爾後同國ノ醫官交替其任ニ當リシカ病院ノ擔ニ歸セシメ明治十一年十一月十六日局員前田五等出仕派出ノ命ヲ蒙リ英醫老連遜ト俱ニ三港ヲ巡同シテ實地ノ景況ヲ檢視シ其狹隘不潔ヲ極ムル等ノ弊アル者ハ縣官ニ商議シテ之ヲ改良セシメ以テ英國

神奈川縣懲戒病院設置ヲ以テ設置ヲ許ス

神奈川縣申立病院ノ儀ハ民費ヲ以テ取建候ヘハ不苦候條此段可相達事

神奈川縣ヨリ文部省ヘ伺五年二月二日

當港吉原病院ノ儀ハ先年來英國政府ヨリ醫官指越懲戒院爲致有之候處元來他國ノ醫官ニテ國內ノ病院進退爲致候テハ少事件トハ作申主權ノ權ニモ相懸候趣キ外務省ヨリ御達モ有之其段至極尤ノ次第ニ奉存候間當縣ニテ病院造營洋醫相履候儀ハ何卒大阪府長崎縣ノ例ニ習ヒ御沙汰モ有之旁私共ニテ指揮仕候儀縣務繁劇ノ際行届難申候間病院ノ儀ハ何卒大阪府長崎縣ノ例ニ習ヒ御沙汰モ有配被成下度候就テハ右病院造營并二年中ノ諸費等ハ當港市中人民ヨリ相當ノ出費爲致可中候間何卒至急御取扱被下度奉願候委細外務省ヘモ申立置候間御打合ノ上御指揮被下度若亦御下問ノ儀モ御座候ヘハ參省委細可申上此段相伺候以上

神奈川縣ヨリ文部省ヘ上申五年三月十九日

常縣病院ノ儀ニ付先達中退退申上置候處當縣寄留早矢仕有的使用致候ハ別段外國醫官御入ニ不相成候ハ差支有之間敷段細川廣世殿ヨリ御談有之篤ト勘辨仕候處元來當縣懲戒院ヘ英國ヨリ醫官指越居候テハ主權ノ權ニモ關係致シ候儀ニ付此度病院取立外國醫官入ニ相成候上ハ右醫官ヲモ相斷度見込ニ有之然ルテ早矢仕有的ヲ以テ病院ヘ使用候ハ右醫官安シテ歸國致間敷且此度病院取建候趣意ハ懲戒院ノミ療用爲致候譯ニモ無之内外諸病人ノ入院ヲ許シ追追規則中防恙法ヲモ取設候ニ付大病院無之候テハ其法難被行又其法不取設時ハ港規則ノ全備ニ難申甚以不都合ニ付此度病院取建立候ニハ是非共外國醫官御入御省管轄相成候様致度右建立ニ付テハ管下ヨリモ凡一萬兩程ノ出金爲致可申見込ニ有之候間至急御評決相成候様致度此段申上候以上

内務省へ達 七年七月八日

兵庫長崎兩港ヘ懲戒病院ヲ設立セシム

兵庫長崎兩港へ微毒病院ヲ建テ經費其外橫濱微毒病院ノ方法ニ準シ取計候様兩縣へ可相達此旨相達候事

先般兵庫長崎兩港へ微毒病院建設ノ儀相達置候ニ付テハ外國醫師等使用ノ儀可有之候間外務省へ協議ノ上處分可致此旨相達候事

外務省上申七年三月十五日
兵庫長崎兩港於テハ現今微毒病院ノ設無之尤長崎港ニハ先年一時建設有之候へ共其後廢絶兵庫港ノ如キハ開港以來未其舉ニ至ラス然ルニ兩港ノ如キ彼我人民輻湊ノ地ニシテ右微毒検査治療ノ方法取設無之ヲハ人民保護ノ關點ニ有之既ニ同港滯在英國軍艦水夫共ノ内微毒傳染却ノ者不少由ニテ同公使ヨリ病院建設ノ儀申立且當時橫濱病院引受無給ニテ日々治療致居候英醫ヒールヲシテ兵庫港病院ヲ兼勤セシメ候テ可然旨ヲモ申聞候右ハ尤ノ筋ニモ相聞ヘ海外各港於テハ其國其港ノ都合ニ寄官費民費ヲ以テ取設候區別ハ可有之歟難計候ヘトモ人民羣集ノ港ニハ必可有之由就テハ橫濱於テハ先年病院建設相成微毒検査ノ真法取設相成其以後病源漸減ニ近ク其効驗ヲ奏候事不測依テ差向橫濱ノ振合ニ照準シ先兵庫縣へ建設相成夫ヨリシテ長崎縣へモ推及相成微毒検査ノ法行届退々病根斷絶候ハハ御國人ノ幸福ノミナラス外客マテモ辦理ヲ得候儀ト被存候間尙地方官見込モ可有之候間篤ト御評議有之度此段申進候也

追テ橫濱病院方今ノ景況參考ノ爲メ別紙同縣令申出ノ書而附上仕候右病院入費ノ出方ハ遊女鑑札料或ハ人力車稅等ノ如キ賦金ノ内ヨリ費消致候儀ニ付兵庫港ニ於テモ入費出方ニ差支有之間敷候一英醫ヒール儀ハ先年來無懈怠出張橫濱ハノ規則確定致シ日本醫生モ熱達候趣ニ付最早外醫ノ治療ヲ待テス差支無之旨兼テ神奈川縣令ヨリ申出有之且兵庫ト兼帶ハ其勢一方ヲ退カサルヲ得サル儀ニ付此期會ヲ以テ橫濱ノ方ハヒールヲ謝絶シ更ニ兵庫ノ方ヲ專任候様依頼ニ及方可然ト存候尤同人年來無給ニテ出張ハ畢竟其自國人ノ爲トハ乍申我政府ノ不行届ヲ補助候筋ニ當候ニ付其功勞深謝スヘキ儀ニ付病院開創セシニウツンヘ恩賜ノ例ヲ參考シ更ニ可相伺候也

指令七年七月八日
上申ノ趣聞届別紙ノ通内務省へ相達候條英醫ヒール使用等ノ儀ハ同省へ可打合候事
內務省伺七年六月二十八日
當三月十八日御下間相成候兵庫長崎兩港微毒病院建設ノ儀右兩縣ニ於テ實際設立ノ方法及費用課出法等凡橫濱病院ノ振合ニ倣ヒ見込早々取調可申出旨及尋問置候處今度別紙ノ通申出候就中兵庫縣具狀ノ趣致勘辨候處隱シ賈女交際ノ方法相立サル中ハ檢査法施行相成候トモ右病毒一洗シ實効恐ラシ相立マシトハ相成間敷存候ヘトモ差向此儘在舊因循候テハ到底微毒絶斷ノ期曾テ有之マシク殊ニ如此淫風假

警視廳病院娼妓微毒病室規則

娼妓微毒病室規則

警視廳達 九年三月二十四日 第八十號第五病院

令一時ニ停止相成マシク候迎其儘可擱儀ニ無之何レニモ漸々徐々除去ノ法目的可致儀ニ有之就テハ先ツ明許鑑札ヲ受テ居候娼妓共ニ施シ候様御世話有之度存候依テ同縣申立書并ニ長崎縣御請書共取束相副及上陳候間篤御詮議ノ上早々何等ノ御指令被下度候也
庶務課議案七年七月五日
外務省伺兵庫長崎兩港へ微毒病院建設ノ儀内務省御下間ノ末別紙ノ通答議有之兵庫縣於テハ賈賣女云ノ故ヲ以テ彼是異議モ有之候へ共夫レカ爲メ因循抛却可致筋ニモ無之ニ付同省見込ノ通先ツ現今明許鑑札ヲ受テ居候娼妓共ニ施シ可然儀ニ付兩縣トモ檢査病院建設ノ儀内務省へ御達相成可然哉因テ御指令案トモ相伺候也
庶務課議案七年七月二十三日
兵庫長崎兩縣へ微毒病院建設ノ儀ニ付頃日外務省上申ノ趣ヲ以テ内務省へ御達有之候處右文中外國人使用ニ付テハ外務省協議スヘキトノ廉御達相成候ニ付尙左ノ通御達相成可然存候事

娼妓微毒病室規則

第一條 入院ノ娼妓ハ検査掛ノ送狀ニ依リテ掛員之ヲ各室ニ配置ス可シ

但各所ノ娼妓雜居セシメサルヲ要ス

第二條 掛リ醫員ト雖モ回診ノ外妄リニ室内ニ入ルヲ許サス

第三條 娼妓入院中外出ハ勿論他ノ病室ニ入ル可カラス

但容體ニヨリ散歩ヲ命スル者ハ此限ニアラス

第四條 用藥攝生等醫員ノ命ニ違背ス可カラス

第五條 醫員ノ許可セサル食物ハ一切室内ニ入ル可カラス

第六條 勝負事ハ勿論歌謠等一切嚴禁タルヘシ

第七條 親族ト雖モ室内ニ入ルヲ許サス若シ要用アル者ハ正副元締人ノ證書ヲ以テ其旨該院へ届出應

但重症ノ者ハ病室ニ於テ面會ヲ許スコトアルヘシ

第八條 看護人ハ二室或ハ三室ニ一人ヲ任用セシムト雖モ附添人ヲ使用スルハ勝手タルヘシ
但附添人ハ一人ニ付一日金十五錢宛ノ賄料ヲ收ム可シ

第九條 全治シテ退院ヲ命スヘキ者ハ其旨該院ヨリ直チニ正副元締ニ達ス可シ

第十條 正副元締ノ證書ヲ以テ引取人出頭セシトキハ其姓名及ヒ其月日ヲ簿冊ニ登記シ本人ヲ引渡ス可シ
本連本月二十五日第八十號ヲ以テ貸坐敷有之地區長戸長ニ達ス

警視廳入院娼妓見舞時
限ヲ定ム

警視廳達 七年三月二十九日
入院娼妓見舞人之儀午前第八時ヨリ午後第二時迄ニ限り候條此旨正副元締へ可相達事
但日曜并土曜日ハ不相成候事

警視廳入院娼妓金錢所
持ヲ禁止ス

警視廳達 七年四月二十七日
入病院ノ娼妓金錢所持候儀堅ク禁止候條此旨正副元締并右渡世筋之者へ無洩可相達事

警視本署娼妓入院中
母疾病ニ依リ出院請
願手續

警視本署達 十年六月十四日
娼妓入院中其父母疾病ニ罹リ看護又ハ一時面會ノ爲メ出院ヲ請フモノハ親戚ヨリ事由ヲ詳記シ出稼ノ貸坐敷主并元締ノ加印アル書面及ヒ治療ヲ受ケル醫師ノ診斷書ヲ添直ニ該病院へ申立候儀ト可相心得此旨豫テ其筋ノ者へ可相達事

警視本署娼妓入院中父
母疾病ニ依リ廢業願書
差出方

警視本署達 十年六月二十九日
娼妓入院中其父母疾病ニヨリ廢業願ノ儀ハ本人并親戚貸坐敷主元締等連印ノ書面ニ現住ノ區ノ戸長ノ奥印ヲ受ケ出願爲致候儀ト可相心得此旨豫テ其筋ノ者へ可相達事

警視本署警視第三第四
病院ヲ徵毒病院ト改稱
ス

警視本署達節錄 第十三年八月二十六日(全文ハ警視廳
今般從前ノ警視病院ヲ廢シ更ニ警視病院并徵毒病院左ノ通取設候條此旨相達候事
麹町徵毒病院 元 第三病院
本郷徵毒病院 元 第四病院

警視廳徵毒病院事務規
程

警視廳達 十四年二月三日
徵毒病院事務規程別紙之通相定候條此旨相達候事

十四年三月十一日警視廳
達課外ヲ以テ徵毒病院事
務ヲ分任ス
十五年四月警視廳第四十
四號ヲ以テ徵毒病院事務
心得ヲ改定ス

總長
第一 病院一切ノ職務ヲ幹理シ及ヒ各醫員ノ勤怠ヲ監視ス
第二 各醫員ノ賞罰黜陟ハ第二局長ヲ經テ總監ニ具申ス

院長
第一 職務總長ニ亞ク
第二 日々大祭祝日及ヒ輪番ヲ以テ醫員ヲ各貸坐敷地ニ派出檢徵セシム
第三 日々入院患者ヲ診察シテ治療ヲ施行ス
第四 諸器械ノ修補又ハ新調等醫員ヨリ申告アル時ハ病院事務掛へ通告シ購求ノ手續ヲナサシム
副院長
院長ノ職務ヲ助ケ院長事故アルトキハ其代理タルコトヲ得

當直醫
第一 院長副院長ノ指揮ヲ受各貸坐敷地ニ派出シ檢徵ノ方法ヲ施行シ及ヒ入院患者ノ代診ヲナス
コトヲ得

第二 諸器械ヲ主管シ若シ欠損等アル時ハ修補又ハ新調ノ手續ヲ院長ニ申告ス
第三 病室ヲ巡視シ患者ノ不攝生及ヒ看護者ノ勤怠等ニ注意ス

- 第四 院長診察ノ際ニ臨ミ病症經過及ヒ処方等ヲ其指圖ニ從ヒ登記ス
- 第五 患者異症ヲ發スルトキハ速ニ院長ニ報告ス
- 第六 患者ノ食物ヲ検査シ有害又ハ不良ト認ルトキハ交換セシム
- 第七 日々一名輪番ヲ以テ宿直ス

副當直醫

調藥監

- 第一 調藥ニ係ル一切ノ事務ヲ幹理シ及ヒ調藥係リノ勤怠ヲ監視ス
- 第二 醫員ヨリ送付スル處方ノ調劑ニ誤謬ナキコトニ注意ス

調藥副監

職務調藥監ニ亞ク

調藥掛

- 第一 調藥監ノ指揮ヲ受ケ調劑ヲナシ而シテ處方箋月日ノ下ニ捺印ス
 - 第二 處方箋ニ疑アル時ハ調藥監ニ質問シ臆斷ヲ以テ調劑ヲナスコトヲ得ス
 - 第三 藥品及ヒ器械等欠乏ノ物品アルトキハ院長及ヒ調藥監ニ申告シ受取方ヲ病院事務掛ニ照會ス
 - 第四 藥品出納月表ヲ制シ院長ニ呈ス
 - 第五 日々一名輪番ヲ以テ宿直ス
- 事務掛
- 第一 諸器械ノ新調又ハ修補等院長ヨリ通告アルトキハ速ニ第二局第二課へ申告ス
 - 第二 日々要用ノ藥品ハ院長ノ通告ニ因リ購求シ月末ニ至リ證書ヲ以テ代價受取方ノ手續ヲナス
- 但院内修繕ニ係ルモノ金十圓以下ハ直チニ修補ヲ加へ後チニ本條ノ手續ヲナス

- 第三 門監小使看護者等ノ勤怠ヲ監視シ事故アルトキハ院長へ協議シ後ニ第二局第二課へ申告ス
- 第四 入院患者ノ出入及ヒ諸費日表ヲ製シ前月分ヲ翌月五日迄ニ第二局第二課へ回送ス
- 第五 院内ハ勿論溝渠等ハ時々掃除セシメ不潔ナカラシム
- 第六 日々一名輪番ヲ以テ宿直シ院内諸取締及ヒ火ノ元ニ注意ス

警視廳達 十四年二月八日

警視病院并微毒病院ノ儀於其局管理可致此旨相達候事

警視廳達 十四年二月八日

微毒病院ノ儀第一局ニ於テ管理セシメ候條右事務可引渡此旨相達候事

警視廳達 十四年三月十一日

微毒病院事務分任左ノ通相定候條此旨相達候事

第一局主管

- 醫員并事務掛及門監備人進退ニ關スル事
- 貸坐敷地檢微醫員ヲ派出スル事
- 微毒検査統計表及ヒ患者表ヲ製スル事
- 檢微所并病舎等營繕ノ仕法ヲ勘査スル事
- 第二局主管
- 賦金ヲ徵收シ之ヲ書記局會計部ヘ付シ及ヒ其支出ヲ勘査スル事
- 檢微所へ官員ヲ監臨セシムル事
- 書記局會計部主管

微毒検査治療費トシテ徵收セシ金員ヲ月々第二局ヨリ領置シ該費ニ支出スル事

警視廳微毒病院事務分任方
十四年十二月二十八日
警視廳外務部會計課
事務掛書記局會計部ニ直達
セシム

警視廳微毒病院第一局管理トス
十四年三月警視廳達第四十一號ヲ以テ警視病院ヲ廢テ警視病院ノ部ニ設ス

檢査所病舎等營繕ノ事

警視廳達 第十四年十二月二十八日

警視廳達 第十四年十二月二十八日
檢査所病舎等營繕ノ事ノ儀、自今書記局會計部ニ直轄セシメ、候條同部承合事務引渡可申此旨相達候事

但舊掛員ノ儀ハ從前ノ通相心得事務取扱可申事

警視廳達 第十四年十二月二十八日

警視廳達 第十四年十二月二十八日
檢査所病舎等營繕ノ事ノ儀ニ付第一局へ左ノ(前)通相達候條此旨相達候事

警視廳達 十五年一月十八日

警視廳達 十五年一月十八日
檢査所病舎等營繕ノ事ノ儀、自今書記局會計部ニ直轄セシメ、候條同部承合事務引渡可申此旨相達候事

檢査所病舎等營繕ノ事

警視廳達 十五年一月十八日
檢査所病舎等營繕ノ事ノ儀、自今書記局會計部ニ直轄セシメ、候條同部承合事務引渡可申此旨相達候事

警視廳達 十五年一月十八日

第一條 病院ノ會計事務ハ收支豫算ニアツテハ第一局ト會計部ノ協議ヲ以テ調整シ金錢物品ノ出納及

財產ノ處分ハ會計部派出員其取扱ヲナスモノトス

第二條 金錢出納ハ通常收支ハ現費ヲ以テ其時々本廳ヨリ受拂ヲナシ臨時費用并一廉金二圓以内ノ分

ハ派出員豫備金ノ内ヲ以テ一時其仕拂ヲ爲スヘシ

但豫備トシテ平時金百圓ヲ病院ニ備ヘ置ヘシ

第三條 派出員ハ毎月金出納ノ決算表ヲ製シ翌月十日限り會計部へ差出スヘシ

第四條 派出員ハ每會計年度收支決算報告書ヲ製シ年度經過ノ後三十日限り會計部へ差出スヘシ

第五條 營繕ハ一廉金二圓以内ノ修繕ニシテ難擱箇所ニ限り派出員其取扱ヲナスヘシ

第六條 派出員ハ每三箇月物品ノ受拂表ヲ製シ會計部へ差出スヘシ

第七條 財產ニ屬スル家屋物品ハ每一箇年會計計算表ヲ製シ會計部へ送付スヘシ尤其増減アルトキハ其時々同部へ報告スヘシ

但檢査所ニ屬スル財產モ本條ニ準シ其取扱ヲナスヘシ

第八條 現金ハ派出員之ヲ監守シ退散ノ際緘印シ事務係當直へ監守セシム

警視廳達 十五年三月十五日

警視廳達 十五年三月十五日
麴町檢査所ヲ廢シ從來同院ニ於テ管理之事務本郷檢査所病舎へ合併候條此旨爲心得相達候事

警視廳達 十五年四月十四日

警視廳達 十五年四月十四日
檢査所病舎等營繕ノ事ノ儀、自今書記局會計部ニ直轄セシメ、候條同部承合事務引渡可申此旨相達候事

檢査所病舎等營繕ノ事

院長

第一 總監ノ命ヲ受ケ入院患者ノ診療檢査及ヒ該院一切ノ事務ヲ管掌ス

第二 調藥生以上ノ賞罰黜陟ヲ總監ニ具狀シ門監以下ハ之ヲ專決スルヲ得

第三 諸器械ノ修補又ハ新調ヲ要スルトキハ會計掛ニ通告シテ處理セシムヘシ

第四 事務ノ日報ヲ總監ニ呈スヘシ

副院長

院長ノ職務ヲ輔ク院長事故アルトキハ其代理タルコトヲ得

當直醫

第一 院長ノ指揮ヲ受ケ以下各項ノ事務ニ從事スヘシ

第二 入院患者ヲ診視シ及ヒ各檢査所ニ派出シテ娼妓ノ健康ヲ檢査スヘシ

第三 病室ヲ巡視シ患者ノ攝生及ヒ院中取締向ニ注意スヘシ

第四 患者ノ病症經過及ヒ處方ヲ登記スヘシ

第五 宿直ニ當リ重患者アルトキハ其治療法等豫メ院長ノ指揮ヲ乞ヒ異症ヲ發シタルトキハ速ニ

- 院長ニ報告スヘシ
- 但患者危篤ニ臨マハ貸坐敷元締へ通知スヘシ
- 第六 患者ノ食物ヲ検査シ有害又ハ不良ト認ルトキハ交換セシムヘシ
- 第七 患者日表ヲ製シ院長ニ呈スヘシ
- 第八 看護婦ノ勤怠ヲ監視スヘシ
- 第九 諸器械ヲ管守シ若シ闕損等アルトキハ修補又ハ新調ヲ院長ニ申告スヘシ
- 第十 一名輪番宿直ス

副當直醫

職務當直醫ニ亞ク

調藥監

- 第一 院長ノ指揮ヲ受ケ以下各項ノ事務ニ従事スヘシ
- 第二 調藥ニ係ル一切ノ事務ヲ管理シ及ヒ調藥生ノ勤怠ヲ監視スヘシ
- 第三 醫員ヨリ送付スル處方ノ調劑ヲ監視スヘシ
- 第四 藥品ヲ審査シ不良品アルトキハ之ヲ院長ニ申告スヘシ

調藥副監

職務調藥監ニ亞ク

調藥生

- 第一 調藥監ノ指揮ヲ受ケ以下各項ノ事務ニ従事スヘシ
- 第二 處方箋ニ照シ調劑ス但處方箋ニ疑ヒアルトキハ調藥監ニ質問スヘシ
- 第三 藥品及ヒ器械等ヲ管守シ若シ闕乏アラハ調藥監ヲ經テ院長ニ申告スヘシ
- 第四 日々出納スル藥品ハ總テ帳簿ニ詳記シ置キ藥品出納日表ヲ製シ調藥監ヲ經テ院長ニ呈スヘシ

第五 一名輪番宿直スヘシ

微毒病院會計掛職務心

警視廳達 十五年四月二十八日 第五十一號

微毒病院會計掛職務心得別紙之通相定候條爲心得此旨相達候事

微毒病院會計掛職務心得

- 第一 書記局會計部長及院長ノ指揮ヲ受ケ以下各項ノ事務ニ従事スヘシ
- 但第二第三ノ兩項ハ院長ノミノ指揮ヲ受ケヘシ
- 第二 門監以下ノ勤怠ヲ監視シ其賞罰黜陟ヲ院長ニ具狀スヘシ
- 第三 文書往復其他院中一切ノ庶務ヲ掌ル可シ
- 第四 毎會計年度收支ノ豫算調書ヲ調製シ會計部へ差出スヘシ
- 第五 會計法規ニ從ヒ金錢物品ノ出納ヲ取扱フヘシ
- 第六 院長以下ノ俸給其他給與一切ノ事ヲ取扱フヘシ
- 第七 諸器械ノ新調修補及其他ノ物品ハ院長ノ通告ニヨリ其當否ヲ審査シテ受授スヘシ
- 第八 家屋ノ修繕等ヲ要スルモノアルトキハ會計部へ申報スヘシ尤一廉金二圓以内ニ係ルモノハ直ニ處辨スルコトヲ得
- 第九 毎月金錢出納ノ現計表ヲ製シ翌月五日期限リ會計部へ差出スヘシ
- 第十 毎會計年度收支決算報告書ヲ製シ會計部へ差出スヘシ
- 第十一 毎三箇月物品ノ受拂表ヲ製シ會計部へ差出スヘシ
- 第十二 財産ニ屬スル家屋物品ハ每一箇年會計計算表ヲ製シ會計部へ差出スヘシ尤其増減アルトキハ其時々同部へ申報スヘシ
- 但檢微所ニ屬スル財産モ本條ニ準シ取扱フヘシ
- 第十三 一名輪番宿直スヘシ

十九年三月警視廳達第十
一號ヲ以テ第十三項ヲ刪
除ス

警視廳毒病院近火等非常ノ節立退方

警視廳達 十七年三月十八日
其院自今近火等非常ノ節ハ根津微毒検査所ヲ以テ在院患者ノ立退所ト相定且各貸座敷元締行事及ヒ吉原根津貸座敷主ノ内各十名宛左ノ雛形之鑑札ニ無號ニシテ顯帶參院セシメ候條患者護送方等總テ指揮取計フヘシ

右相達候事
警視廳達 十七年三月十八日
警視毒病院近火非常等之節救援方別紙之通各貸座敷元締及ヒ行事へ相達置候條此旨心得ヘシ

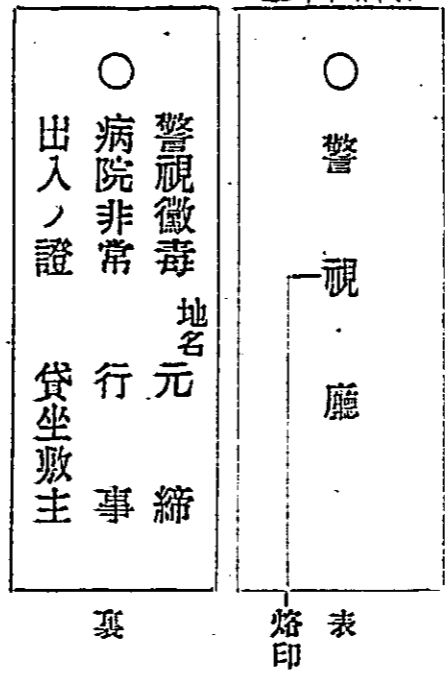
別紙并鑑札ノ圖ハ乙號ニ載ス

警視廳布達 十七年三月十八日
警視毒病院近火等非常之節救援ノ爲メ各貸座敷元締行事及ヒ吉原根津ハ別ニ貸座敷主ノ内各十名ツ

渡ス可シ
左ノ鑑札ヲ顯帶直ニ馳付諸事該病院長ノ指揮ヲ受ケ候條各業體ノ者へ可相達但鑑札ハ第二局ヨリ下

右相達候事

鑑札雛形 堅三寸



警視廳毒病院會計掛職務心得中ヲ刪除ス

警視廳毒病院職務章程

警視廳達 十九年三月五日
達 第十一號 警視一 般

明治十五年 四月 第五十一號 達 警視毒病院會計掛職務心得中第十三項ヲ刪除ス

警視廳訓令 二十年二月二十一日
甲 第十一號

警視毒病院職務章程別紙ノ通之ヲ定ム但明治十五年 四月 第四十四號 達ハ廢止ス

警視毒病院職務章程

院長

- 一 院長ハ醫務部長ノ命ヲ承ケ微毒検査入院患者ノ診療其他該院ニ關スル一切ノ事務ヲ提理ス可シ但病院及ヒ検査所ノ興廢分合娼妓身分上ニ關スル事務ハ第一局長ノ管理トス
- 二 醫員以下ノ賞罰黜陟ハ醫務部長ニ具申シ門衛以下ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 三 藥品器械ノ新調并院内ノ破損修繕十圓未満ハ院長之ヲ專行シ其都度醫務部長ニ届出可シ
- 四 一周年度經費ノ豫算書及ヒ決算報告書ヲ調製シ醫務部長ニ差出ス可シ
- 五 毎月勘定帳ヲ製シ翌月十日マテニ醫務部長ニ差出ス可シ
- 六 患者日報月報及ヒ病院年報ヲ製シ醫務部長ニ差出ス可シ

副院長

一 院長ノ職務ヲ助ケ院長事故アルトキハ之ヲ代理スルコトヲ得

醫員

- 一 院長ノ命ヲ承ケ患者ヲ診療シ検査定日ニ各検査場ニ派出シ娼妓ヲ診察シ有毒ノ者ニハ入院ヲ命ス可シ
- 二 患者ヲ分擔診療シ毎日病症及ヒ經過ヲ登記シ院長診察ノ際之ヲ申告ス可シ但院長ノ命ナクシテ濫リニ處方ヲ變更スルコトヲ得ス

- 三 患者ノ病狀經過治驗等ヲ記ス可シ
- 四 重症患者アルトキハ其治療法等豫メ院長ノ指揮ヲ乞ヒ異症ヲ發シタルトキハ速カニ院長ニ報告ス可シ但患者危篤ニ臨ムトキハ速ニ貸座敷元締ニ通知ス可シ
- 五 全癒者アルトキハ院長ノ審査ヲ經テ退院ヲ命ス可シ
- 六 患者ノ食物ヲ検査シ有害又ハ不良ト認ムルトキハ交換セシム可シ
- 七 看護婦ヲ視察監督シ其勤怠ヲ院長ニ具申ス可シ
- 八 院長ノ指揮ヲ受ケ患者日報月報及ヒ病院年報ヲ調製ス可シ
- 九 醫員ハ一名ツ、當直ス可シ

醫員助手

一 職掌事務醫員ニ同シ

調劑掛長

- 一 院長ノ命ヲ承ケ調劑ニ關スル一切ノ事務ヲ管理シ調劑掛ヲ監督指揮ス可シ
- 二 醫員ヨリ送付スル處方箋ニ依リ調劑ヲ爲サシメ若シ處方ニ疑アルトキハ之ヲ主任醫ニ質問ス可シ
- 三 藥品闕乏スルトキハ其品目ヲ記シ院長ノ檢印ヲ受ケ庶務掛ニ通知シ買上ケノ手續ヲ爲ス可シ但買上藥品ハ之ヲ審査ス可シ
- 四 諸器械ヲ管守シ若シ闕損等アルトキハ修補又ハ新調ヲ院長ニ申告ス可シ

調劑掛

- 一 掛長ノ命ヲ承ケ調劑ニ從事シ其處方箋ニ疑アルトキハ掛長ニ質問ス可シ
- 二 毎日出納スル藥品ハ其量目ヲ帳簿ニ詳記シテ日表ヲ製シ掛長ヲ經由シテ院長ニ出ス可シ
- 三 調劑掛ハ一名ツ、當直ス可シ

庶務掛

一 庶務掛ハ院長ノ命ヲ承ケ書記簿記金圓物品ノ出納并院内一切ノ庶務ニ從事ス可シ

札幌本廳娼妓ノ徵毒
患者救助入院ヲ止ム

十六年四月札幌縣達乙第
五十三號ヲ參照スヘシ

札幌縣娼妓徵毒治療ノ
爲メ公立病院入院中藥
價支給方

北海道廳驅微院規則

- 二 藥品器械等ノ新調ヲ要スルトキハ院長ノ指揮ヲ受ケ總テ入札買上ケノ手續ヲ爲ス可シ
- 三 院内職員ノ俸給ハ會計局ヨリ受領シ本人ノ捺印ヲ得テ之ヲ配賦ス可シ

開拓使札幌本廳達 七年二月二十八日
第七千四百四十四號(正)副局長

娼妓共徵毒相患ヘ候者願ノ上救助入院差許來候處自今徵毒ニ限り救助入院不差許候條此旨貸座敷渡世之者并ニ娼妓ヘ可相達事

(參考)

開拓使事務報告抄錄
明治五年六月札幌石狩通一號官舎ヲ假梅毒院トシ毎月一六ノ日娼妓徵毒有無ヲ檢シ有毒者ハ入院治療セシム九月札幌雨龍通ニ徵毒院ヲ新築ス
明治六年一月東創成町札幌假病院ヲ本院ニ移シ梅毒院ノ稱ヲ廢ス

札幌縣達 十六年四月三十日
第五十三號 區役所

娼妓徵毒治療ノ爲メ縣公立病院ヘ入院中ハ賄料ヲ除クノ外藥價ハ當分檢徵費トシテ賦金ノ内ヨリ支給候條受拂ノ儀ハ本年四月第三十九號達ノ通可相心得此旨相達候事
但縣公立病院無之地方若クハ入院ス可ラサル場合ニシテ警察署又ハ分署ノ認可ヲ經タルモノハ仍ホ本文ニ準シ支給ス可シ

北海道廳訓令 二十年八月二十日
第五百二號 警察署 第四千四百號

驅微院規則左ノ通定ム

驅微院規則

- 第一條 驅微院ハ貸坐敷ノ戶數娼妓ノ員數及ヒ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ設置ス
- 第二條 驅微院ハ娼妓ノ徵毒ヲ検査シ及ヒ之カ病患者ヲ集メ治療スル所トス

二十一年十一月北海道廳訓令
令中第百三十號ヲ以テ第五
五條ヲ改正ス

北海道廳醫務課規程中
ノ改正ス

東京府下ニ脚氣病院ヲ
設立ス
十三年四月二十六日達ヲ
以テ脚氣病院ヲ文部省管
理ニ屬ス
十一年七月東京府達乙第
十九號ヲ以テ神田神保町
へ建設ス

第三條 驅黴院ニハ左ノ職員ヲ置ク

檢黴醫
藥劑員

第四條 檢黴醫ハ黴毒検査及ヒ其治療ヲ掌リ藥劑員ハ藥劑ノ調査及ヒ諸器械保存ニ從事ス

第五條 檢黴醫ハ廳立又ハ町村立病院ノ醫員ヲシテ之ヲ兼務セシムルコトアルヘシ

第六條 驅黴院ハ所轄警察署ノ管理ニ屬ス

第七條 驅黴院處務細則及ヒ入院娼妓ニ關スル諸般ノ規程ハ警察署長之ヲ定メ認可ヲ得テ施行ス可シ

北海道廳訓令 二十一年十一月十七日
第百三十號 醫務課 規程

明治二十年八月北海道廳訓令第百二號驅黴院規則第五條左ノ通改正ス

第五條 檢黴醫藥劑員ハ廳立又ハ町村立病院ノ醫員藥劑員ヲシテ之ヲ兼務セシムルコトアルヘシ

內務省ヨリ東京府へ達 十一年三月十五日

脚氣病ノ儀ハ本邦一種ノ風土病ニシテ殊ニ東京府下ニ於テハ年々此病ニ罹ルモノ夥敷愕然ノ至リニ付府下適宜ノ地ヲ撰ミ脚氣病院ヲ設立療法ヲ研究シ專ラ該病ニ罹ルモノヲ救療可致就テハ補助金トシテ向五箇年ヲ限リ毎年一萬圓并本年設立費八千圓可下渡候條爾他ノ費用ハ其府ニ於テ適宜取計至急着手可致尤醫員其他ノ撰擧并規則方法等ハ悉皆當省衛生局へ稟議ヲ遂ケ候上施行可致此旨相達候事
追テ病院ノ場所撰定建築ノ圖面取調早々可申出

內務省同十一年二月二十三日
脚氣ノ慘毒恐怖スヘキハ世人ノ通知スル所ニシテ支那ニ於テハ三國五代ノ頃盛ニ流行シテ此名稱アリ本邦ニ於テモ大同年間既ニ其療法ヲ類集方ニ載セタルハ該病ハ亞細亞洲中一種固有ノ風土病ニシテ東洋ノ一大患害タルコト蓋シ既ニ尙シテ其病理療法ハ古今諸家ノ說種々之レ有リト雖モ概テ晋宋二三醫師ノ舊法ニ基キ自家ノ理想ヲ附行シテ或ハ經驗ノ確説トナシ或ハ深詣ヲ得ルトナスモ和漢從來

醫學ヲ修ムルモノハ專ラ温故ニ汲々トシテ知新ノ志想ニ乏シク殊ニ物質分析ノ術ニ暗ク病源治療ノ實理ヲ不窮故ニ其經驗中縱令或ハ治療ノ肯綮ヲ得自然病理ニ暗合スルモノアルモ以テ一般ノ規範トナスヘキモノ無シ又歐米醫師ノ本邦ニ在留スルモノ其病理ヲ論シ治療ヲ施スヤ各人其意見ヲ殊ニシ未タ一定ノ真理ヲ發明シテ不拔ノ治則ヲ確定スルカス蓋シ考究ノ日淺キト實驗ノ少ナキト以テ其境ニ達スルコト能ハサルナルヘシ要スルニ今日該病ノ治療ニ於ケル一ツモ適從スル所ナシト謂フモ亦不可ナルコトナキカ如シ此恐ルヘキノ大患ヲ固有シ其救濟ノ術ニ於テ亦聊頼スル所ナシト謂フモ亦不其ト謂フヘシ目今衛生ノ道ニ於テ厚ク御請導被爲在候時ニ際シテカ療法ヲ窮明シテ救濟ノ道ヲ設クルハ最モ緊急不可忽儀ニ付先年文部省ニ於テ一般ニ報告シ右療法經驗取調候儀有之候得共一時ノ事ニ止リ別ニ得ル所モ無之昨十二月尙又各地方へ達置候次第モ有之未タ具狀ノ期限ニ至候得共紙筆ノ陳述スル所或ハ各自ノ臆見ニ止リ恐ラシハ實蹟ノ徵スヘキモノナク以テ治療ノ規範ヲ得ルニ至ルコト能ハサルヘシ或ハ金一萬圓宛向五箇年間并ニ本年設立費八千圓ヲ東京府廳ニ委託シ不足ノ分ハ府稅等ノ内ヨリ之ヲ補充シテ一場ノ脚氣病院ヲ設立セシメ其規則方法ニ至リテハ當省衛生局ニ於テ之ヲ管理シ以テ許多ノ脚氣病者ヲ蒐集シ博ク篤志熟達ノ醫師ヲ撰ヒテ其治療ヲ任シ切磋商研究普ク於テ之ヲ管理シ較量シ實驗ヲ積ミ病理療法ヲ講究候ハハ數年ノ後必ス該病治療ノ通則相定マリ可申存候間國費御多端ノ折柄ニハ候得共出格ノ御詮議ヲ以テ前領ノ金員別途御下付相成度大藏省協議之上相伺候條至急御決裁有之度候也
指令十一年三月七日
伺之趣聞屆候條金額大藏省ヨリ可受取事
大藏省へ達 十一年三月七日
別紙內務省伺脚氣病院設立ノ儀朱書ノ通及指令候條金額渡方可取計此旨相達候事
調查局議案十一年二月二十八日
內務省伺脚氣病院設立ノ儀審案候處申白ノ趣ハ衛生上必要ノ儀ニ付御聞屆相成可然哉左案取調相伺候也
內務省同十一年七月二十日
先般伺脚氣病院設立ノ儀ハ氣節既ニ炎熱ニ及ヒ該病患者増加候折柄ニ付差向ノ處文部省所轄舊英語學校跡借受本月十日ヨリ假リニ開院候段東京府ヨリ申出候條此段及御屆候也
東京府ヨリ內務省へ届 十一年七月十三日
常府脚氣病院ノ儀差向ノ處文部省所轄舊英語學校借請本月十日假開院候條此段及御屆候也

脚氣病院癡狂院へ金圓
ヲ下賜

宮内省ヨリ東京府へ達 十一年五月二十三日
今般內旨ヲ奉シ脚氣病院癡狂院設立ニ付思召ヲ以金二萬三千圓下賜候條右費用之内へ可差加旨御沙汰候事

神田表神保町一番地脚氣病院ヲ假設患者ヲ入院セシム
十一月十二月東京府達乙第四十五號ヲ以テ閉院ス
十二月三月東京府達乙第二十三號ヲ以テ更ニ本郷向ヶ岡彌生町ニ設置ス

神田表神保町脚氣病院閉院

本郷區向ヶ岡彌生町へ脚氣病院設置

十三年四月二十六日達ヲ以テ東京府脚氣病院ヲ文部省ノ管理ニ屬ス

東京府脚氣病院ヲ文部省ノ管理ニ屬ス

十五年四月二十八日達ヲ以テ脚氣病院ヲ廢シ大學醫學部ニ於テ該病ヲ管理セシム

東京府達乙十一年七月五日 所部省達
本月十日ヨリ第四大區一小區表神保町一番地 英語學校へ脚氣病院假設候條該病患者ハ同所へ入院治療ヲ受ケ候様區内へ可及告示此旨相達候事
但入院規則并ニ施療手續等之儀ハ同院ヨリ可及廣告候事

東京府達乙十一年十二月七日 所部省達

神田區表神保町一番地本府脚氣假病院本年之儀ハ來ル十日限り閉院候條爲心得此旨相達候事

東京府達乙十二年三月二十七日 所部省達

本郷區向ヶ岡彌生町二番地へ本府脚氣病院設置來ル四月一日ヨリ開院候條該病患者ハ治療請候様那區内へ可及告示此旨相達候事
但入院規則并施療手續等ノ儀ハ同院ヨリ廣告候答ニ有之事

文部省へ達 十三年四月二十六日

東京府脚氣病院ノ儀自今其省ニ於テ管理可致就テハ該院補助金二萬二千九百七十圓宛向三箇年間別途大藏省ヨリ下渡候條此旨相達候事

但從前取扱等ノ儀ハ內務省ニ可承合事

東京府へ達 十三年四月二十六日

其府脚氣病院ノ儀自今文部省主管ニ屬シ候條補助金并規則方法等ノ儀總テ同省へ稟議可致此旨相達候事

內務省同十三年四月九日

一昨十一年二月中相候脚氣病院設置ノ儀御許可ヲ蒙リ東京府へ相達シ該院ヲ建設シ委員ヲ命シテ治療審査編輯ノ三部ニ分チ其治療部中更ニ五區ニ分チ每區專任ノ委員ヲ定メ分掌經驗爲致治療上ノ成績

ハ同院年報ヲ以テ上申候通ニ有之候然ルニ病理病因ノ事ニ至テハ解剖學生理學化學等ノ數科ニ關涉シ到底大學ニ於テ研究不致候ヲハ實踐ヲ難收候ニ付自今文部省ニ於テ致管理隨テ治療ノ儀ハ從前ノ通り各自分任尙充分ノ經驗ヲ遂ク審査以上ノ事ハ大學ニ於テ專ラ擔當致候方可然存候條文部大藏兩省并ニ東京府へ御達案相添相候條至急御許可相成度候也
東京府脚氣病院ノ儀自今文部省主管ニ屬シ候條從前內務省へ相渡候該院補助金ノ儀ハ本年ヨリ向三箇年間文部省へ相渡スヘシ此旨相達候事
內務省議案十三年四月十三日
別紙內務省同脚氣病院ノ儀申出ノ通允裁相成可然哉左案仰高裁候也
內務省同十三年五月三十一日
去ル二十八日東京府脚氣病院事務文部省へ引渡候ニ付此段及御届候也
文部省同十三年五月三十一日
今回ノ御達ニ依リ東京府脚氣病院管理事務過ル二十八日內務省ヨリ當省へ引繼候條此旨及御届候也

文部省へ達 十五年四月二十八日

其省管理脚氣病院ノ儀本年度限廢止候條該病審査ノ事ハ更ニ其省所轄東京大學醫學部ニ於テ管掌セシムヘシ此旨相達候事

文部省ヨリ東京府へ達 十五年五月三日

東京府脚氣病院ノ儀ハ本年度限り廢止シ該病審査ノ事ハ更ニ當省所轄東京大學醫學部ニ於テ管掌可致旨太政官ヨリ達有之候條此旨相達候事

但該病院へハ其府ヨリ可相達事

東京府ヨリ東京府脚氣病院へ達

其病院本年度限り被廢候條脚氣病審査ノ事ハ文部省東京大學醫學部へ引繼ヘシ此旨相達候事

文部省同十五年三月日開

當省管理脚氣病院ノ儀去明治十三年ニ於テ更ニ三箇年間設置ノ期限ヲ以テ毎年二萬三千九百七十圓ノ費額ヲ充テ當省ノ管理ニ歸セラシメ以來既ニ二箇年間當省初設立ノ趣旨ヲ繼承シテ許多ノ脚氣病者ヲ蒐集シ熱心ノ醫術ヲ發揮シテ其審査治療ニ任シ切實研究其病理療法ヲ調査セシメ居候處設立以來既ニ數年ヲ經過シ當省初見込ノ期限モ今ヤ餘ス所幾クモ無之付テハ其治療上ニ於テ得ル所ノ成績固ヨリ無キニ

脚氣病院ヲ廢シ該病管理ノ事ハ大學醫學部ニ於テ管掌セシム

アラス即該病ハ其病勢ノ緩劇ト患者ノ體質トニ由テ治療ヲ異ニスルヲ他ノ諸病ト一般ニシテ而シテ一
 藥一方ノ特效ニ頼テ以テ之ヲ醫治スヘカラスナルコト證スル等ノ儀有之候ヘ共病理上ノ審査ニ至テハ未
 タ其眞理眞因ヲ究明スルコト能ハス仍テ案スルハ今僅ニ利ス處ノ期限内ニ於テ充分ノ成績ヲ收ムルハ
 到底望ムヘカラスナル儀ニ有之候抑該病ハ亞細亞洲中一種固有ノ風土病ニシテ其病理療法ニ付テハ古
 諸家ノ說種々アリト雖モ能ク其眞理眞因ヲ究明セシモノ固ヨリ未タ之レアラズ又歐米醫師ノ本邦ニ在
 留スル者ノ其病理ヲ論シ療法ヲ施スモ各其所見ヲ殊ニシテ未タ一定ノ眞理ヲ發明セシモノアルカ
 且該院ニ於テ數年來切實研究致候ヘ共未タ衆說一定セサル程ニ候ヘハ其眞理眞因ハ必スヤ許多ノ歳月
 ヲ累テテ研究セサルヘカラスナル儀ト存候付テハ其審査ノ事業ハ永ク之ヲ存スルコト緊要ト存候ヘトモ
 其治療上ニ於テハ前所陳ノ如ク既ニ聊カ得ル所モ有之該院設置ノ美旨モ現ニ其成績ヲ得テリト云
 且今日世間ニ於テハ前所陳ノ如ク既ニ聊カ得ル所モ有之該院設置ノ美旨モ現ニ其成績ヲ得テリト云
 存候然ル處當省主管教育事務中目下緊急中ノ最緊要トスルモノ頗ル多ク有之候ヘトモ財政上ノ御都合
 モ有之經費節略ノ折柄不得止其實施ヲ圖ルコト能ハスシテ僅ニ申立置候和學所設置ノ如キ學事監督事
 務擴張ノ如キ大學中研究新設ノ如キ必須不可止事項モ經費上ノ評議ニ涉リ猶實施スヘカラスナル勢ニ
 有之依テハ百方熱慮審ニ事務ノ緩急ヲ計較シ苟モ省略シ得ヘキモノハ勉テ之ヲ省略シ以テ夫ノ最急務
 ノ事業ニ供スヘキ資ヲ得テトテ企圖スルニ際シ前段脚氣病院ノ儀ハ素ト急務ニ付テハ獨リ審査上ノ事業ノ
 ス候ヘトモ其治療上ノ事業ハ既ニ所陳ノ如ク敢テ之ヲ存スルヲ要セス候ニ付テハ獨リ審査上ノ事業ノ
 爲メ今條ス處ノ儘少ノ期限間之ヲ存スルモ其利益多カラサルヘキニ付テハ今該院ヲ廢止シ其病理審査ノ
 一事ハ之ヲ存シテ該費用ノ幾分ヲ給シ以テ大學醫學部ニ屬シ其他該院一切ノ費用ハ當省最急務ノ事業
 即前述三項中先ツ和學所設置學事監督事務擴張ノ爲メ之ヲ轉用致候條來十五年度ヨリ總額二萬三千
 九百七十圓ヲ當省經費中へ增加相成候様致度別冊報告書相添此段至急仰裁可候也
 第二局議案十五年四月二十一日
 別紙文部省伺脚氣病院廢止ノ件ハ去明治十三年ニ於テ更ニ金二萬三千九百七十圓ノ年額ヲ充テ三箇年
 間設立相成其効不少ト雖モ病ノ眞理眞因ニ於テハ未タ一定ノ說ヲ得ル能ハス而テ期限滿ス所幾許モナク
 到底完全ノ成績ヲ難期ニ依リ本年度限之ヲ廢シ獨リ病理審査ノ一事ヲ大學醫學部ニ屬シ該費用ノ幾分ヲ
 給シ其他該院一切ノ費用ハ衆テ上陳セシ和學所設置學事監督事務擴張ノ費用ニ轉用致度ニ付テ來十五年
 度ヨリ總額金二萬三千九百七十圓ヲ同省經費中へ增加相成度トノ旨ニ有之依テ案スルニ充分ノ見
 込大キモノヲ其儘差置カサルモ不都合ニ有之而シテ和學所設置學事監督事務擴張ノ儀ハ教育上尤緊要
 ノ次第ナラハ伺ノ通御聽許右金額ハ今般御改正定額ニ增加相成可然哉左案取調第一局合議仰高裁候也

東京府布達 第十三年十一月二十四日

上野公園地舊養育院跡ニ假設致置候當府癲狂院へ入院願手續自今左ノ通相心得可シ此旨布達候事
 一貧窮ニシテ一定ノ入院料ヲ納メ難キ者ハ患者所在ノ區役所又ハ戶長役場へ申出書面ニ其與印ヲ請ケ

東京府癲狂院へ入院願
 手續
 十四年八月東京府布達第
 百二十九號ヲ以テ駒込
 東片町へ移轉ス

府廳へ願出可シ

一自費患者ノ入院ヲ乞フ者ハ保證人ヲ立テ直ニ該院へ申出可シ

(參考)

内閣記録局ヨリ東京府へ照會二十三年十二月二十三日
 癲狂院創設ノ年月日承知致度且右ニ付達等有之候ハハ一通御同付有之度此段及御照會候也
 東京府回答二十三年十二月二十六日
 記第四七八號ヲ以テ癲狂院創設ノ年月日承知致度云云御照會之趣了承則別紙之通取調及御同送候也
 (別紙)
 明治十二年六月日不詳上野養育院ノ一部ニ癲狂院ヲ假設ス

東京府布達 第十四年八月三十日

東京府癲狂院本日本郷區駒込東片町一番地へ移轉候條此旨布達候事

東京府ヨリ癲狂院へ達 十五年十二月十五日

各警察署ヨリ護送ノ癲狂人身上ニ關スル儀ハ自今都テ該患者警察官ニ於テ看認候地ノ區役所又ハ戶長
 役場ニ於テ取扱候條爲心得此旨相達候事
 但入院料ハ仕譯書ヲ添其區役所戶長役場へ請求スヘシ

警視廳達 十七年一月十六日

自今私立癲癲病院へ患者視察ノ爲メ臨時主務ノ官吏ヲ派遣シ且其出入人員等調査セシム可ク候條此旨
 豫メ該院へ告示スヘシ
 右相達候事

東京府ヨリ癲狂院へ達 十七年一月十八日

警察官ヨリ其院へ送附シタル途上患者死亡之節ハ是迄區役所戶長役場ノ官吏立會來ル處自今立會ヲ要

東京府癲狂院ニ於テ時
 時主務ノ官吏ヲ派遣
 者死亡ノ節取扱方

東京府癲狂院ヲ本郷區
 駒込東片町ニ移轉ス
 十九年六月東京府告示第
 五十一號ヲ以テ東郷區駒
 込東片町ニ移轉ス

警視廳私立癲癲病院へ
 臨時主務ノ官吏ヲ派遣
 ス

東京府癲狂院等ノ構造
圖面并經費等取調方

東京府癲狂院ヲ小石川
區巢鴨區町ニ移轉ス

虎列刺避病院設立方法
心得

十二年六月布告第二十三
號ニ依テ消滅ス

スルニ及ハス候條死者ノ相貌景狀附屬シタル物品等ヲ詳記シ揭示方ニ差支ナキ様其時々役所役場ニ對シ通牒可致此旨相達候事
但變死者有之節ハ從前ノ通り可相心得事

東京府ヨリ公立東京癲狂院私立瘋癲病院根岸病院小松川癲狂病院へ達 十七年三月二十六日
其院構造圖面并經費等左之項目取調至急可差出此旨相達候事

- 一 病院構造圖面
- 一 創立費并ニ一箇年經費
- 一 諸規則
- 一 設立以來患者明細表

東京府告示 第十九號 五月十一日

東京府癲狂院本月二十日小石川區巢鴨區四十一番地へ移轉ス
右告示ス

內務省達節錄 乙卯年八月二十七日 府令 第七九號 (全文ハ別紙ニ載ス)

虎列刺病豫防法心得別冊編製相達候條實地流行ノ際ニ於テハ更ニ該法ヲ考訂斟酌シテ臨時相達候儀モ可有之候得共豫防方法ノ儀ハ病毒侵入ノ前豫メ注意ヲ要スル事件不尠ニ付爲心得此旨相達候事

虎列刺病豫防方法心得

第三條 港口ニ於テ離島或ハ人家隔絶ノ地ヲ撰ヒ臨時避病院ヲ設ケ入港船舶ノ「虎列刺」患者ヲ入ル、ニ供シ或ハ便宜ニ從ヒ該地方ニテ此病ニ罹リタル者モ入院セシムルコトアルヘシ
但避病院ハ其構造極メテ輕易ヲ主トシ三棟ヲ建ルカ或ハ一棟ニシテ二室ニ區畫シ輕症重症恢復期

ノ患者ヲ分チ置クヘシ

第四條 避病院ニハ黃色ノ布ニQ字ヲ墨記シタル標旗ヲ建テ其境界ニハ制止榜ヲ立テ嚴シク外人ノ交通ヲ絶ツヘシ且該院ニ需用スル一切ノ物品ハ使丁ヲ定メテ購求シ其使丁ハ決シテ病室ニ入り或ハ病毒汚染ノ物品ニ觸レシムヘカラス

第五條 避病院ノ患者全快シタルトキハ委員ヨリ全快ノ證書ヲ與ヘ衣服其他一切ノ什具ニ消毒法ヲ行ヒ退院セシムヘシ病者輕快ニ赴クトモ委員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ決シテ院外ニ出ツルヲ許サス

第六條 避病院ニ於テ死亡シタル者ノ埋葬地ハ委員ニ於テ相定シ妄リニ埋葬スヘカラス但該地方ニ墓地ヲ有スルモノ委員ノ許可ヲ得消毒法ヲ行フ後ハ運搬スルモ妨ケナシ

東京警視本署達 五ノ番外各分署 五月九日

路上ニ於テ虎列刺病ニ感染スル行人并宿所不分明ノ者等ヲ救援致シ候節療養可致場所無之テハ差關候條避病院設立迄ノ間假リニ右療養所相定可申ニ付各分署ニ於テ可成人家稀疎ノ地ニアル貸家等ヲ相選ミ家稅地租取調早々可申出此旨相達候事

東京警視本署布達 甲第四十一號 十月十四日

今般虎列刺病避病院左ノ箇所へ設立候條此旨布達候事

- 北品川洲先キ舊臺場
- 市谷富久町監獄支署地續
- 本郷森川宿續里俗向ヶ岡
- 本所綠町貳丁目學校地

警視本署虎列刺病ニ感
染スル行人等住居兼所
ヲ設ク

十年十月四日警視本署達
五ノ無號ヲ發スヘシ

十年十月警視本署達甲第
四十一號ヲ以テ避病院ヲ
設立ス

警視本署北品川外四箇
所へ虎列刺避病院ヲ設
立ス

警視本署路上行人寄附
所トシテ借受ケル
家屋ヲ返付セシム

警視本署各避病院宿直
心得方

警視本署各避病院假規則

十三年八月東京府達乙第
三十六號ヲ以テ避病院并
傳染病室事務手續ヲ定ム

東京警視本署達 十三年十月四日

避病院設置ノ間假ニ路上行人無宿等救護之場所相撰ニ家稅地租取調可申旨九月二十四日相達置候處此
度各所避病院落成候ニ付最早取調申出不及且既ニ借受ケ約定候分ハ其當日ヨリ本日迄ノ家稅日割ヲ以
テ該署定額ヨリ繰替家主ニ下付シ證書相添受取方本署第五課へ可申出此旨更ニ相達候事

東京警視本署達 十三年十月五日

各避病院宿直ノ儀ハ掛員并ニ會計掛輪番交直可致此旨相達候事

但當分ノ内休暇無之候事

東京警視本署達 十三年十月六日

避病院假規則左之通相定候條此旨相達候事

避病院假規則

- 第一條 避病院ハ虎列刺病患者ヲ救療スル所トス東京ニ四箇所ヲ設クヘシ
- 第二條 避病院ニハ黃色ノ布ニQ字ヲ墨記シタル標旗及ヒ其境界ニハ制止榜ヲ建テ嚴ニ外人ノ交通ヲ
絶ツヘシ
- 第三條 管内外ヲ間ハス船舶之患者ハ總テ品川及ヒ本所綠町之兩避病院ニ入レ治療セシムヘシ
- 第四條 避病院ハ二等ニ區別シ第一ヲ輕快室第二ヲ輕症室第三ヲ重症室トシ第三室中更ニ死室一區ヲ
設クヘシ
- 第五條 避病院構内別ニ掛員及醫師事務所及看病人休息所ヲ設クヘシ
但休息所ハ各室ニ就キ適宜之ヲ設クヘシ
- 第六條 醫員ハ其方面警視病院ヨリ派出シ一週間輪番交直院中ニ在テ時々患者診察若クハ投劑等ノ事
ニ注意スヘシ

第七條 掛員ハ時々院内ヲ巡視シ每室清潔ナラシメ且看護人ヲシテ時々消毒法ヲ行ハシメ決シテ豫防
ヲ怠ルヘカラス

第八條 掛員及ヒ醫師ハ院中ノ事務ニ從事スル節ノ衣服料ヲ給スヘシ

第九條 掛員及ヒ醫師等ノ他行セント欲スル時ハ必ス消毒法ヲ行ヒ新衣ヲ換著スヘシ

第十條 該院中病室外三四十歩ノ距離ニ物品受授所ヲ設ケ物品購求ノ使丁ハ該所ヨリ内ニ入ルヲ得ス
又看病人等ハ該所ノ外ニ出ルヲ許サス(當分空室ヲ以テ適宜ニ之ニ充ツヘシ)

但掛員醫員ハ此限ニ在ラス

第十一條 該院ニ需用スル一切ノ物品ハ使丁ヲシテ購求セシムト雖トモ該丁ハ決シテ病室ニ入り或ハ
病室汚染ノ物ニ觸レシムヘカラス

第十二條 掛員ハ第一號警察官吏ヨリ出ス所ノ證書アレハ入院セシメ直ニ醫員ニ報スヘシ

第十三條 醫員ハ新患者入院ノ時ハ直ニ診斷治療シ決シテ等閑ニ付スヘカラス

第十四條 患者全治スル時醫員ハ其全治ヲ證スル爲メ第三號ノ證書ヲ與フヘシ

第十五條 患者全快ニ趣クト雖モ醫員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ決テ病室外ニ出ルヲ許サス

第十六條 患者全快シタル時掛員ハ衣服其他一切ノ什具ニ消毒法ヲ行ハシメ第四號出院許可證書ヲ與
ヘ然ル後退院セシムヘシ

但其本籍區務所ニ通知スヘシ

第十七條 患者死亡ノ節ハ死室ニ移シ直ニ消毒法ヲ行ヒ然ル後其親戚ニ通シ埋葬ノ手續ヲ行ハシムヘ
シ其貧困無資之者ハ官費埋葬スルヲ得

但其父母妻子へ通報スルハ物品購求ノ使丁タルヘシ

第十八條 凡ソ患者該院ニ在テ療養中ハ父母妻子兄弟タリ共決テ患者ニ接スルヲ許サス

第十九條 醫員ハ日々治療中ノ患者全快死亡等第二甲乙號ノ報告書ヲ製シ掛員ニ出スヘシ

第二十條 掛員ハ午前初時ヨリ午後十二時迄ノ患者死去ノ増減ヲ醫師ノ報告書ニ依リ調査シ第五號報

十年十月警視本署達第百
號ヲ參照スヘシ

告書ヲ翌日午前九時迄ニ本署第五課ニ出スヘシ
 第二十一條 該院門監ハ最モ嚴密ニシテ掛員ノ許可ナキ者ハ總テ出入スルヲ禁スヘシ
 第二十二條 患者ノ排泄物若クハ浴湯ノ汚水等ハ看病人ヲシテ兼テ定メタル地ニ埋没セシムヘシ

○第一號 送院證

第何大區何小區何町何番地寄留

何府縣士族

何 某

年齡何年何箇月

右何月何日何時何々徵候發病ヲ記ス(醫員某虎列刺症ト診斷候ニ付送院候事

臨視ノ警部或ハ巡查

何 某

年號月日

避病院

御中

○第二號

發病報告

何月幾日報告書

何大區

、、、、、

、、、、、

、、、、、

、、、、、

、、、、、

、、、、、

、、、、、

體質
病名
原因
徵候
經過
處方

年月日 發起ト最後死亡ト其日ヲ同フスルハ別ニ最後報告書ヲ要セス本書經過ノ欄内ニ掲記スヘシ

○第二乙號

最後報告

何月幾日報告書

醫員

何 某 印

何月幾日第何號報告患者

何 某

經過何月幾日コロリ云々

死去午前後何時何十分

全快

醫師

何 某

年月日

○第三號

第何號
虎列刺病

全治之證

何 某

年月日

醫員 氏 名